

製品安全データシート

1，化学物質等及び会社情報
製品名　　酸化ニッケル(II)　Nickel (II) oxide
整理番号　32295
作成日　　2000年9月30日
改訂日　　2012年7月9日

会社名　　純正化学株式会社
本社住所　〒103-0023　東京都中央区日本橋本町4-4-16
●連絡先及び緊急連絡先（MSDS作成担当）
担当部門　営業本部　　学術担当
担当住所　〒343-0844 埼玉県越谷市大間野町1－6
電話番号　048-988-3621　FAX番号　048-988-6689
E-mail: shiyaku-t@junsei.co.jp
http://www.junsei.co.jp

用途と使用上の注意：本製品は試薬ですので、試験研究用以外には使用しないで下さい。

2，危険有害性の要約
【GHS分類】NITE分類(ID= 21C0017)
物理化学的危険性
　可燃性固体　：区分外
　自然発火性固体　：区分外
　自己発熱性化学品　：区分外
　水反応性可燃性物質　：区分外
健康に対する有害性
　急性毒性　経口　：区分外
　呼吸器感作性　：区分1
　皮膚感作性　：区分1
　生殖細胞変異原性　：区分外
　発がん性　：区分1A
　特定標的臓器／全身毒性（反復暴露）：区分1（呼吸器）
環境に対する有害性
　水性環境急性有害性　：区分外
　水性環境慢性有害性　：区分4
（注）危険有害性の分類で、「分類対象外」及び「分類出来ない」は項目を省いた。

【GHSラベル要素】
【GHS絵表示】



【注意喚起語】

危険

【危険有害性情報】

吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
発がんのおそれ
長期又は反復ばく露による呼吸器の障害
長期的影響により水生生物に有害のおそれ

【注意書】

【安全対策】

・使用前に取扱説明書を入手すること。
・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
・取扱い後はよく手を洗うこと。
・適切な保護手袋を着用すること 。
・換気が十分でない場合には、適切な呼吸用保護具を着用すること。
・適切な個人用保護具を使用すること。
・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
・粉じん、蒸気、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。

【応急措置】

・皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
・汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
・吸入した場合、呼吸が困難な場合には、新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
・吸入した場合、呼吸に関する症状が出た場合:医師に連絡すること。
・皮膚に付着した場合、皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
・ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。
・気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

【保管】

・施錠して保管すること。

【廃棄】

・中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

3, 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別:単一製品
化学名:酸化ニッケル(II)
化学式:NiO
CAS No:1313-99-1
EINECS No:215-215-7
含有量:99%以上
化審法:1-517

安衛法:公表

4, 応急措置

○ 吸入した場合:新鮮な空気と安静。必要な場合には人工呼吸。医師に連絡。
○ 皮膚に付着した場合:汚染された衣服を脱がせ、水と石けんで皮膚を洗浄。医師に連絡。
○ 眼に入った場合:先ず数分間、多量の水で洗い流す(できればコンタクトレンズをはずす)。医師に連れて行く。
○ 飲み込んだ場合:意識あるなら、口をすすぐ。意識なければ、何も与えない。医師に連絡。

予想される急性症状及び遅発性症状

最も重要な徴候及び症状

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

医師に対する特別な注意事項

5, 火災時の措置

消火剤

水スプレー、粉末消火薬剤、AFFF(水性膜泡消火薬剤)、泡消火薬剤、二酸化炭素。

使ってはならない消化剤

棒状放水

消火方法

周辺火災の場合、出切る限り速やかに容器を火災現場より遠ざける。移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。

着火した場合は風下の人を退避させ火元への燃料源を断ち、風上より消火剤を使用して消火する。消火に当たっては保護具を着用する。

特有の危険有害性:

特有の消火方法:データなし

消火を行う者の保護のために着用する保護具:防火保護服、手袋に加え、空気呼吸器等を着用する。

6, 漏出時の措置

人体に対する注意事項

暴露しないよう十分な換気のもと保護具着用して行う。

保護具及び緊急時措置

「8. 暴露防止及び保護措置」における、保護具着用

環境に対する注意事項

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

回収、中和

漏出物をふた付の容器に集め、残留物を砂または不活性吸収剤に吸収させて安全な場所に移す。

7, 取扱い及び保管上の注意

取扱い

ー蒸気、ミスト、ガスが、皮膚に触れたり、吸入することがないように、
局所排気したり、保護具を着用する。
ー作業場を換気する。
ー作業中は飲食、喫煙をしない。

保管

ー密栓して換気のよい冷暗所に保管する。

8, 暴露防止及び保護措置

通気:換気装置を用いて、ミスト、ほこり、蒸気濃度を低く保つ。
管理濃度(労働安全衛生法):粉状の物について 0.1mg/m3(Niとして)
許容濃度
日本産業衛生学会(2011年度):設定されていない
ACGIH(2010年):TWA 0.2mg/m3(Niとして) (インハラブル粒子)
設備対策
局所排気装置、洗眼器、安全シャワー
保護具
－防塵マスク。防毒マスク。送気マスク、空気呼吸器等。
－不浸透性保護手袋。
－安全ゴーグル。
－不浸透性保護衣。

9, 物理的及び化学的性質

外観:暗緑色の等軸晶系結晶、加熱すると黄色になる。
臭い:データなし
pH: データなし
融点:1955 ℃
沸点:データなし
引火点:データなし
爆発範囲の上限・下限: データなし
蒸気圧:データなし
蒸気密度:データなし
比重:6.72g/cm3
溶解度:水に不溶
n-オクタノール／水分配係数:データなし
自然発火温度:データなし
分解温度:データなし

10, 安定性及び反応性

反応性と安定性:常温常圧で安定
避けるべき条件(静電放電、衝撃、振動など):データなし
混触不可物質:強い酸化剤
危険な分解生成物:
危険な重合反応:しない

11, 有害性情報

急性毒性 経口
ラットの LD50 値 ＞5,000 mg/kg(ECETOC TR 33 (1989)) に基づき区分外とした。
急性毒性 経皮
データなし
急性毒性 吸入:ガス
データなし

急性毒性　吸入：蒸気
データなし
急性毒性　吸入：粉塵ミスト
データなし
皮膚腐食性／刺激性
データなし
眼に対する重篤な損傷性／刺激性
データなし
呼吸器感作性
ニッケルないしニッケル化合物として日本産業衛生学会の許容濃度等の勧告 (2008)で気道感作性物質 (第 2 群)に、DFG(MAK/BAT No43 (2007))で気道感作性物質に分類されていることから、区分 1 とした。
皮膚感作性
EU 分類 R43 であり、ニッケルないしニッケル化合物として日本産業衛生学会の許容濃度等の勧告 (2008)で皮膚感作性物質 (第 1 群)に、DFG(MAK/BAT No43 (2007))で皮膚感作性物質に分類されていることから、区分 1 とした。
生殖細胞変異原性
マウスを用いた吸入ばく露による骨髄および末梢血を用いた小核試験（体細胞 in vivo 変異原性試験）で陰性〔NTP DB (Access on January., 2009)〕、マウスおよびラットを用いた経口または腹腔内投与による小核試験で陰性〔ATSDR (2005)〕の結果に基づき区分外とした。なお、in vitro 変異原性試験：CHO 細胞を用いた突然変異試験では陽性〔ATSDR (2005)〕、ヒト末梢血リンパ球を用いた染色体異常試験〔EHC 108 (1991)〕および Ames 試験〔NTP DB (Access on January., 2009)〕は陰性であった。
発がん性
IARC がグループ 1〔IARC 49 (1990) 〕、ACGIH が A1（ACGIH (2001)）、EU が Carc.Cat.1〔EU-Annex I (2009)〕、日本産業衛生学会が 1（産衛学会勧告 (2008)）に分類していることから、区分 1A とした。
生殖毒性
ラットの器官形成期に吸入ばく露した試験において、親動物の体重減少の認められる用量で仔の体重減少以外に影響は見られていないが、親動物の性機能、生殖能に関するデータがないことからデータ不足のため分類できない。
特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）
データなし
特定標的臓器／全身毒性（反復暴露）
厚生労働省報告では、職業的にニッケル酸化物や金属ニッケルの 0.04mg/m3 以上の濃度にばく露している労働者は、呼吸器疾患で死亡する確率が高いとされ、また、ニッケル精錬とニッケルメッキ作業者に鼻炎、副鼻腔炎、鼻中隔穿孔、鼻粘膜異形成の報告がある（厚生労働省報告：ニッケルおよびその化合物有害性評価書(2009)）。これにより区分 1（呼吸器）とした。動物試験では、ラットを用いた 13 週間の吸入試験において、肺の肉芽性炎症、気管支および縦隔リンパ節の過形成がガイダンスの区分 1 に相当する 0.004 mgNi/L で認められ（ATSDR (2005)）、ラットを用いた 104 週間の吸入ばく露試験において、羊膜の扁平上皮化生、肺胞の過形成、線維化がガイダンスの区分 1 に相当する 0.0006mg/L でみられた（NTP TR-451(1996)）。また、マウスを用いた 104 週間の吸入ばく露試験においても肺の炎症と気管支リンパ節におけるリンパ球過形成がガイダンスの区分 1 の用量で認められている（NTP TR-451 (1996) ）

吸引性呼吸器有害性
データなし

12, 環境影響情報

ー生態毒性

水性環境急性有害性

甲殻類（オオミジンコ）の 48 時間 EC50>100mg/L（IUCLID、2000）他から、本物質の水溶解度（不溶（CERI・NITE 有害性評価書（暫定版）、2006））において当該毒性をを示さないことが示唆されるため、区分外とした。

水性環境慢性有害性

水溶解度までの濃度で急性毒性が報告されていないが、金属化合物であり水中での挙動が不明であるため、区分4とした。

13, 廃棄上の注意

中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

14, 輸送上の注意

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実におこなう。

国連番号：非該当
品名：
国連分類：　（　）
容器等級：
海洋汚染物質：非該当
緊急時応急措置指針番号：非該当

15, 適用法令

消防法：非該当
毒劇法：非該当
旧ＰＲＴＲ法：特定 1-232（ニッケル化合物）（平成１２年３月３０日施行）
新ＰＲＴＲ法：特定 1-309（ニッケル化合物）（平成２１年１０月１日施行）
労働安全衛生法：安衛法通知有害物（施行令、別表第九の番号）：418

16, その他の情報

参考文献

ーメルクインデックス１４版 6512
ーＳＴＮインターナショナル　RTECS ファイル　AQUIRE ファイル
ーNITE　GHS 分類データ　(ID= 20A2366)
ーNITE　GHS 分類マニュアル（H18.2.10 版）
ー製品安全データシートの作成指針（改訂第2版）（（社）日本化学工業協会）
ー化学物質総合情報提供システム（CHRIP）（ＮＩＴＥ）　http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html

コメント

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安

全性を十分に保証するものではありません。また、記載物性値は文献値であり、規格値ではありません。
全ての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いします。また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途, 用法に適した安全対策を実施の上でご使用下さい。